

集会決議文

九州・鳥取・福島と、大きな地震が続いています。

ヒタヒタと日本列島に、巨大地震が迫っています。敦賀半島も例外ではありません。開発計画が始まって半世紀以上、高速増殖炉「もんじゅ」は1.2兆円もの国費をムダにして、国民に恐怖以外何の利益ももたらさずに廃炉が検討されています。止まっても、プルトニウム、ナトリウムの危険性に変わりはありません。地震に弱いもんじゅが巨大地震に襲われたならナトリウム大火災はまぬがれないでしょう。一刻も早く廃炉を決定し、やっかいなプルトニウム・ナトリウムを安全に保管しなければなりません。それには今後何十年という長い年月と、少なくとも3000億円という費用がかかります。なんと愚かなことをしたものでしょうか。

しかし、更に愚かなことに国は又、新たにもんじゅに代わる高速炉を一から開発しようとしています。数十年かけて、1兆円をかけて同じ過ちを繰り返そうとしているのです。一体それは誰の利益になるのでしょうか。

常陽も、もんじゅも、再処理も、プルサーマルも全て失敗し行き詰まっているのに、なぜ核燃料サイクルを続けるのでしょうか。自ら廃炉を検討すると言うことは、その事業が失敗したことを意味します。しかし国は、失敗の事実を認めず、国民への謝罪もなく、少数の原子力村の利害関係者だけの密室の会議で、新高速炉開発計画を検討しているのです。民主主義を蹂躪するこの暴挙を断じて許すことはできません。

核燃料サイクルは百害あって一利なし。続ける大義名分はどこにもありません。人口も減り、省エネも再エネも進み、電力が余っている時に増殖の意味など全くありません。継続の口実に使っている減容化も、増殖以上に危険でムダな空論です。続ければ、48トンもの余剰プルトニウムを更に増やしてしまい、核疑惑は払拭できません。

今日、全国から集まった私たちは、もんじゅ廃炉と共に、再処理もプルサーマルもフランスとの共同開発も、全てから撤退することを求めます。まして、新高速炉「もんじゅ2」の建設など到底許されるものではありません。

一切の核燃料サイクル政策を断念するよう強く強く国に求めます。